

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもステーションあそび家・上峰			
○保護者評価実施期間	R 8 年 2 月 12 日		～	R 8 年 2 月 28 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 (24世帯)	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	R 8 年 2 月 24 日		～	R 8 年 3 月 5 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R 8 年 3 月 11 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの特性をよく理解して、サービス利用計画を作成してもらっている、安心できると思っていたいただいていること	保護者との面談やアンケート、検査などのフォーマルなアセスメント、日々の支援の中で職員があげるインフォーマルなアセスメントなどから、子供たちの特性を把握し、5領域に基づいた支援について職員間で話し合いながら計画を作成している。	今後は計画に関する支援会議に、本人や保護者、指導員、相談支援専門員など関係者が集まって話し合うことで、より本人やご家族の意向に沿った計画を作成することで、共通理解も深まることが期待される。
2	活動プログラムがたくさんあって、固定化しないように工夫されていると思っていたいただいていること	それぞれの子どもの特性にあわせた目標や課題を決めて、子どもたちが自分で選んで取り組むようにしている。目標や課題は、毎月変えるようにしているが、年間を通して続けている課題もある。学習支援や微細運動、縄跳びなどの運動など放デイの基本的活動を組み合わせて行っている。	日常生活に必要な事の習得、成功体験を重ねて自己肯定感を育む、表現力や創造性を育む、社会体験を広げる、興味を持つ活動との出会い、リラックスできる環境の提供など、基本となることを念頭に支援に取り組んでいく。
3	連絡ノートやLINEで、いつでも気軽に相談できると思っていたいただいていること	連絡ノートやLINEで、日常の出来事や困っていることなども連絡していただき、助かっている。こんな時はどうすればいいのかなど問い合わせがあるときは、速やかにお応えするようにして、互いの信頼関係を築いていけるようにしている。	通所支援計画でもお知らせしているように、本人や家族への支援としていろいろなサービスがあるので、今後は支援会議等でご家族の意向に沿って積極的な手助けもできるように検討する機会を設けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	あそび家(1号店)に比べて、室内や室外の活動スペースが狭いと思われること	2号店は活動の場所が2か所に分かれているため、狭いと思われるが設置基準は満たしている。通路や庭の不要物を取り除き、場所をとらない運動用具を増やししながら、子どもたちの動線をよくすることで改善できると思われる。	庭にフェンスを作り、人工芝を貼り、花を植え、子どもたちが転がっても大丈夫な空間づくりをおこなってみた。今後も限られたスペースをどう生かしていくか、子どもたちが興味ある活動をどう続けていくかを考えながら、環境の改善に努めていくことが必要である。
2	あそび家(1号店)に比べて、職員の配置が少ないと思われること	職員の配置は配置基準を満たしている問題はないが、常時ハローワークで募集はしている。職員は、実務経験が長く経験は豊富だが、内容がマンネリ化してしまう懸念もあるため、新しい人材を入れることもいい効果があると思われる。	ハローワークでの募集は継続していく。また、新しい人材が、風通しのいい職場で働く楽しみを見つけて、子どもたちと一緒に成長していけるように、職場の環境づくりをしていくことも必要である。
3	建物が木造であり、大きな自然災害が起きた時は、やはり心配なところがあること	地域的に水害や土砂災害は心配ないが、台風や地震の場合はどうなるか分からないため、避難訓練や防災計画、業務継続計画などにより、日頃から、職員が準備や対策をしようという意識を持つことが大切なことと思われる。	自然災害時の業務継続計画(BCP)を策定し研修や訓練をすることになり、感染症BCPや安全計画も含めて、年間を通して「災害等起きたらどうするか」という職員の意識を高め、実践していくことが必要である。